

令和3年度

施策評価表(令和2年度の実績評価)

記入年月日

令和 3 年 5 月 27 日

施策 No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	文化財課	主管課長名	高久 幸子
2-5	施策名	文化財の保存活用	関係課	商工観光課、学校教育課、都市整備課		

1. 施策の目的と成果把握

目 的	施策の対象		対象指標名		単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
	・市民 ・桜川市内に存在する文化財	①桜川市人口	人	見込値	41278	41008	40738	40467	40197		
				実績値	41278	40483	39692	38905			
		②指定文化財数	件	見込値	126	126	126	126	126		
				実績値	126	126	127	129			
		③登録文化財数	件	見込値	99	99	102	102	102		
				実績値	99	102	102	102			
	施策の意図		成果指標名		単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
	文化財を保存・活用して継承し、 地域に愛着や誇りを持っている。	①文化財などを大切にし、後世に伝承してい くべきと思う市民の割合	%	目標値	84.7	86.7	87.7	88.7	90.7		
				実績値	83.2	81.6	82.3	79.9			
		②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇り を感じている市民の割合	%	目標値	54.2	55.2	56.2	57.2	60.2		
				実績値	50.1	48.0	54.8	48.8			
		③真壁街並み案内ボランティアを利用した人 数	人	目標値	1525	1625	1725	1825	1925		
				実績値	1831	1401	877	0			
				目標値							
				実績値							
				目標値							
				実績値							
成果指標設定の 考え方		「文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている」は、①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合を、実績値を80%に維持することにより継承出来ると判断した。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合を実測値50%に維持することにより維持出来ると判断した。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数を増加させることにより、施策の意図が醸成されると判断した。									
		成果指標の把握 方法と算定式等		○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合、②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は、市民アンケートより求める。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数は、真壁街並み案内ボランティア受付簿より求める。							

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較 (現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？)			
実績 比較	☐ 成果がかなり向上した	☐ 成果がどちらかといえば向上した	☒ 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	☐ 成果がどちらかといえば低下した	☐ 成果がかなり低下した	
背景・ 要因	アンケートは昨年度に持ち直しがみられたが、今年度は横ばい又は下落となった。真壁のひな祭りが中止になったことなどが影響した可能性もあるが、母集団の年齢層が昨年度より下がったことの影響が大きいと考えられ、施策の成果として低下したとまでは言えない。真壁街並案内ボランティアの案内人数については、コロナウィルスの影響で中止することとなったため、実績なしとなった。		
2) 成果目標の達成状況			
実績 比較	☐ 目標値のすべてを上回った	☐ 一部の成果指標で目標値を上回った	☐ 目標値どおりの成果であった
	☐ 一部の成果指標で目標値を下回った	☒ 目標値のすべてを下回った	
背景・ 要因	①文化財などを大切に、後世に継承していくべきと思う市民の割合は、令和2年度目標値88.7％に対し、79.9％と8.8％下回った。 ②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は令和2年度目標値57.2％に対し、48.8％と8.4％下回った。いずれも全体の下落傾向に対して目標値の適正な修正が出来ていないことが乖離を大きくしている。アンケート結果を地区別にみると、指標①では岩瀬地区80.2％、真壁地区78.8％、大和地区83.9％、といずれも高い水準にあるが、指標②では岩瀬地区44.6％、真壁地区52.9％、大和地区54.5％となっており、大和地区と岩瀬地区とでは約10％の開きがある。大和地区では5.1ポイントの上昇が見られるが、急激な変化要因は見当たらないため、年齢構成やコロナウィルスの影響も考えられる。 ③の真壁街並みボランティアを利用した人数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動を一時休止しているが、全国町並みゼミ桜川市大会の開催に伴って、文化財の紹介動画を作成してリモートへの対応の準備も行っている。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
令和2年度に貢献度が高かった事業は、「歴史資料館運営・教育普及事業」、「国指定史跡真壁城跡保存整備事業」、「旧高久家住宅の管理運営事業」、「国指定史跡管理委託事業」、「出土遺物保存処理委託事業」、「埋蔵文化財確認・試掘・発掘事業」であった。生涯学習課と連携して、一般のみならず、児童・生徒を対象として意識した歴史講座や資料館紹介、真壁城跡発掘調査の様子や成果を動画配信し、裾野を広げた。また、開発に伴う発掘調査を指導し、文化財の保護と事業の進捗を両立させた。	史料調査や企画展示に重点を置くことが難しくなっていることから、体制の整備や収蔵施設の安定的な確保を行う必要がある。また、市内で文化財等の歴史的資産に関する把握状況に地域差があるため、基礎的な調査の拡充を図る必要がある。情報発信や教育普及の取り組みについては、コロナウィルスの影響も踏まえ、ホームページやSNSをはじめとする多様な媒体を活用について継続的に推進する。